



地球温暖化防止のため、

カーボンニュートラル(実質的な炭素排出ゼロ)を

目指すことは世界的な共通目標だ。

ただ「脱炭素化」といわれると違和感も感じる。

生物の体、有機物の骨格をつくるのは炭素。

なぜ「脱化石燃料」と言わず「脱炭素」なのか？

踏み込むべき課題を勘違いしないようにしよう。

望ましい未来を拓くカギは農山村にある。

田んぼのメタンより 農山村の人口維持を！ 地域主導の再エネを！

小林 久 (茨城大学名誉教授)

地域のエネルギー資源も「天地の徳」
二宮金次郎は、万物を生じる「天地の徳」を活用し、「人道」の工夫と努力で暮らしを豊かにすること、他者・後世へ「推譲」^{*1}することについて考え方や方法を説いた。天地の徳には、農地として利用できる土地だけでなく、地域に付随する光・熱、風、水、木などのエネルギー資源も含まれるに違いない。これら地域に潜在する天地の徳を工夫と努力により活用すれば、暮らしを豊かにすることができる。と金次郎は説き、実践したわけだ。なぜ、二宮金次郎にご登場いただいた

地域のエネルギー資源も「天地の徳」



二宮尊徳像(昭和初期
コンクリート製)

2050年カーボンニュートラルに 「勘違い」はないか？

*1 推譲とは、将来に向けて、生活の中で余ったお金を家族や子孫のために貯めておくこと。また、他人や社会のために譲ること(栃木県真岡市HP「二宮尊徳の教え」より)